

会 議 録

会議の名称	第2回 第4期西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会
開催日時	令和2年8月7日（金） 午後2時から4時
開催場所	田無庁舎 202・203会議室
出席者	宮川委員 島委員 鈴木委員 長谷川委員 飯野委員 高木委員 長峯委員 山本委員 鎌田委員 今西委員 渡邊委員 八藤後委員 事務局 徳山副館長 安中主任
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 第1回会議録の修正について 2 計画策定の基本理念について 3 読書活動推進のための基本方針について 4 今後のスケジュールについて 5 市内小中学校図書館視察について 6 次回乳幼児を対象とした取組を作成するにあたって 7 その他
会議資料の 名 称	参考資料 西東京市民マップ
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

1 第1回会議録の修正について

修正箇所確認

2 計画策定の基本理念について

座長 前回策定時から状況が変化している今の状況から見て、深めて考えた方がいい点など、お考えをお聞かせください。

委員 基本理念か基本方針か迷うところだが、デジタル化社会の中で、深い読みの力をつけていくという中で、紙の本が大事ということを入れたいと思う。

座長 多様化するメディア状況の中で、読書に発展させられる子どもをどこかに書くか。

委員 文言に入れるかどうかかわからないが、この中には、読書によって、生きる力を身につけるといことがたくさん書かれているが、リテラシーというか、読み書き能力は、表現したり、人から言われたことを理解する力ということも基礎になると思うが、そういった側面はどこに入るのか。

座長 枠の外の最後の一文がそうで、リテラシーという言葉を使っていないが、具体的な言葉で表現した。

委員 物語を読んで、それから影響を受けて自分を形作るのも大事だが、人の言葉を理解することも生きる上で基礎になるので、もう少し足せるといいと思う。

座長 メディアとかリテラシーという言葉は学校現場で使われるが、西東京市では、具体的な機器が入ってきているのか。

委員 ICT機器の整備についてはこれからということだが、新しい学習指導要領がこれから10年間使われるが、学校図書館の利用の中で、情報活用能力を育てていくことがあるので、具体的な言葉を下の枠の中に入れてもいいのかもしれない。

委員 学校図書館では、実際に生きる糧として読書を楽しむだけではなく、調べ学習で使用することが中学校では圧倒的に多い。3期ではその部分が足りないと思う。教育計画の方針のAIとかビッグデータの活用といったことを意識した文言を入れることにより、学校にも寄り添える形になると思う。

委員 学校現場で必要とされているものとは違って、デジタルがあたりまえの時代に、小さい子に向けて、語りかけとかかわらべうたの必要性を言わないと、機器は使えるが言葉を使えなくなるという危惧があるので、意図して入れて欲しい。理念か方針かわからないが、3期から引き続き入れていきたい。

座長 デジタルのメディアが発達しているからこそ、人間の声で語りかけることも大事だし、機器を使えることも大事。新しいメディアで育てがちな保護者に、励ましも必要だが、子どもも保護者も育てていくことを入れると良い。

3期と4期の違いであるメディアが子どもたちのまわりで変化したことを書かないといけない。その中で読書する自分というのがどういう風に成立するか。そのためには肉声大事だということもあり、また、メディアを使えこなせる子どもでないといけない。そこには情報活用能力やリテラシーという言葉が関わってくる。今までの意見をまとめて、こちらで作成する。

3 読書活動推進のための基本方針について

座長 3期と素案を見ながら確認する。根本は変わらないが、状況は変化しているので付け足しがあるかと思う。3期の7ページ(1)子どもと本の出会いの場を子どもの身近なところで数多く設定します。とあるが、(1)の範囲で、これは違うとか具体的なことがあったら、付け足していけばいいかと思うが、何かあるか。

委員 3期では、乳幼児期と学齢期とわけているが、今回の素案では、わけていないが、何か意図があるのか。

委員 表現を変えた。「一層の推進」とまとめたが、3期のようにわけることによって、細やかな表現ができるのであればそれでも良い。

座長 見出しはこれで良いと思う。後ろの対象別の取り組みに繋げていくとすると、この構成も必要かと思うが、いかがか。

委員 基本方針（４）で「子どもの読書について大人への啓発と支援を行います。」とあるが、「家読」は大人に対する働きかけに関わってくる。（１）子どもと本の出会いの場を子どもの身近なところで数多く設定しますとあるのは、我々行政がやっていることで、家庭は別になるので、新たな項目を作ってもよいかと思う。読書のステージは、我々の前に家庭であって、その家庭をフォローするために、市には様々な手段を持っているというところを打ち出すと、大人への啓発になってくると思う。基本的なところなので、しっかり盛り込めるとよい。

委員 基本方針のところは文章ではなく項目でという提案だが、（１）子どもと本の出会いの場を子どもの身近なところで数多く設定します。という文章は、具体的で良いと思う。（１）の文章をなくさず、説明の中に入れ残したいと思う。

座長 次の学校図書館のところでは何かあるか。

委員 前回の計画と比べると、学習指導要領が改定され、主体的・対話的深い学び、授業改善が求められ、そこに資するような学校図書館の活用方法が一つ大事なところだ。新しいところでは言語活動を大事にしていく、情報活用能力とか学校図書館のところで、情報収集の方法とかを第４期では入れていくといいと思う。主体的・対話的深い学び、情報活用とか新しい形の一層の活用につながると思う。

委員 学校図書館に学校司書・司書教諭がいるということは、学校の中では自明の理であるが、子ども読書活動推進計画を市民に向けて出していく時には、それぞれの役割があることを載せた方がよい。先生の中で図書館のことをつかさどる司書教諭がいて、専門職の学校司書がいる。小学校では図書の間があるが、中学校ではない。そういうことも含めて、情報収集や新しいことに関わっていく学校図書館の基本を書いた方がいい。

委員 この基本方針に学校図書館の位置というか学校の中での位置付けも書いた方がいいということか。センター的機能を有するとかあるが、特徴的な部分は入れた方がいいか。

座長 学習指導要領は変わったところなので、そこは意識した方がいい。

委員 学校図書館に関しては、後半に学校図書館の充実というところがあるので、今回加わったところを厚く書くことで、フォローできる。基本理念には主体的な学習等を盛り込むより、中学生世代のところを書くのと読む方もわかりやすい。

座長 指導要領は、変わってきているのだが、基本的なところは貫かれている。主体的な学びということと、学校司書の手助けも役立つということを踏まえることは必要だと思う。（３）の子どもの読書活動に関わる諸機関の連携のところでは、何かあるか。西東京市の文庫活動はここ５、６年の間に変化があったか。

委員 現状維持という感じである。子ども文庫を用語解説の中に入れていたが、今は関係諸機関とか市民団体とまとめてしまったので、消えてしまうのは良くなかったか。元に戻した方がいいか。

委員 文庫だけでなく、３期で使っている具体的な名前、おはなしや児童書、絵本の勉強会、学校での読み聞かせグループなど、実際に動いている人たちのことなので、ぜひ残してほしい。

委員 具体的な名称・団体名を入れると分かりやすくなるので、修正する。

委員 ６月に出された西東京市社会教育委員の会議による「地域学校協働活動のあるべき姿（中間提言）」の中で、放課後子ども教室のことが書かれている。今回図書館の取組の中でも放課後子ども教室への司書の派遣が新たな項目に入っている。これから提言がまとまっていく中で、地域で地域コーディネーターを作るとか、放課後子ども教室のことも入っているので、「地域の力」をどこかに入りたい。

委員 放課後子ども教室への司書派遣については、今後予定している。具体的な取組の

ところに入れるつもりだが、この部分に入れた方がいいか。

委員 ここでなくても、小学校の具体的な取組のところに入れてもいい。図書館は司書の派遣という取組だが、それ以外の地域の大人というところでも入れることができると思う。この提言がいつ具体化するのかわからないが、ここにいるメンバーが情報共有していればいい。

委員 今の時点では、具体的に司書が放課後子ども教室に出かけていく可能性があるということ載せる方が整合性ある。

座長 整理するが、子どもが育つ場は、まず家庭、そして地域、地域の中に、学校や児童館、保育所など様々施設がある。学校はみんな行かなければいけないので、特化してもいい。家庭も、地域も学校も子どもの読書を支える場で、それぞれの場所に図書館を中心にしたサポートが入るというイメージ。子どもたちが大きくなるにつれて、家庭の中だけだったのが、地域に出ていき、学校に行く。それぞれの場所の子どもたちを図書館は支える。そういう形で組み替えると基本方針としてすっきりする。(4)はどうか。

委員 家庭の読書についても家庭の読書推進、身近なところも大事ということを入れ込んだが、この流れでいいのか判断をお願いしたい。

座長 ここは、今日的な話題が盛り込まれていて、基本理念のところでも話が出たことがより具体的に出てきている。

委員 子どもにとっては家庭が最初のステージで、大事だが、それを行政の計画で推進という表現はどうなのかと思った。これは行政計画だから、推進という言葉より別の言葉を選んだほうが良い。

委員 検討する。

座長 先ほど出てきたように、親御さんはもちろんだが、子どもの身近にいて、子どもに本を手渡す役割を果たしている様々な場所にいる、様々な大人に対して、図書館を中心に働きかけをし、情報提供や啓蒙活動によって、その大人たちを揺り動かすことで動いていくと思う。

委員 (4)下の3行で、子どもと関わる大人の枠を作り、家庭をクローズアップしたいと思いついてその上の行に作成したがどうか。

座長 子どもが本の読者になるためには、その子に本を手渡す大人が必要。家庭は保護者、学校は先生や学校司書、図書館は児童サービス担当。必ず大人が媒介し、特に幼い子には、手渡すだけでなく読んであげることも必要。手渡す大人たちの存在が大きくて、様々な場所で闊達に活動することが大事だということを言っておいて、家庭でも、学校でも…というような構成にできないか。

委員 下の方にまとめた、関わる大人のことについてを先に述べ、その後に家庭のことを書く。

座長 媒介するのが大人たちだと思う。(4)まで来たが、今までのことを踏まえて、更新してくれるか。

委員 今いただいた意見をまとめる。学校図書館については、学校の方でお願いしたい。3期のものを踏まえて4期の素案を作ったが、構成としてはこれでよいか。

座長 他、追加があればどうぞ。

委員 コロナ禍での、子どもの読書というのを入れた方がいいのか。もう一点、子どもの読書の広がりの中で科学へのアプローチもこれから大事なのではないかと思う。デジタル資料と絡めて方針の一つにできないか。

座長 コロナのことはむしろ基本理念のところでもうたうべきなのかと思う。

委員 方針に入れるのであれば、理念にも必要。「はじめに」を中川館長が作成予定だが、現状にあたってということならここでも良いのではないか。

5年間の計画になるので、持ちかえって相談したい。科学については、今は定期的ではないが、行事も企画しているので、取組の部分で反映できる。

委員 個人的な意見だが、子どもにとっては物語が大事、絵本が大事という前提だがこれだけITが進む中で、学校も子どもひとりひとりにPCやタブレットが渡される。図書館の仕事の中に、子ども読書の今までにプラスして新しい展開が必要ではないか。方針の中の一つにあってもいいのではないかという提案。

委員 図書館が積極的に地域に出かけて行くというイメージが推進計画に含まれてくると、図書館も元気になるし、働いている皆さんも元気になる。いつでもそういうことを頭に入れておいて計画の策定につなげられるといい。

座長 基本方針のところは、図書館の委員に更新してもらおう。

4 今後のスケジュールについて

第3回 9月4日(金) 午後2時から4時 田無第二庁舎 4階会議室3

第4回 10月8日(木) 午後2時から4時 田無第二庁舎 3階会議室

基本理念 宮川委員

基本方針 八藤後委員

それぞれ更新し、事前にデータを図書館へ送付

5 市内小中学校図書館視察について

9月10日(木) 14時～予定

田無第二中学校及び谷戸第二小学校

6 次回乳幼児を対象とした取組を作成するにあたって

事務局 次回、上記について検討する。保育園、児童館の委員は、事前にデータを図書館へお願いします。

次回 会議の日程 9月4日(金) 午後2時から 田無第二庁舎 会議室3